

講義科目 : 比較文化論	単位数 : 2
担当 : 竹添 敦子	学習形態 : 選択科目

講義の内容・方法および到達目標

- ・ 西欧と日本を比較しながら、身近な文化現象を再考し、その背後にあるものとの考え方、考え方の違いを探ります。本年は「娯楽」を軸に東西文化を比較します。
- ・ 当たり前だと思っている現象も、歴史をさかのぼると興味深い事実が見えてきます。また私たちの「常識」について、一度立ちどまってみると、思いがけない発見があります。こういったことを確認するために、毎回講義内容から何らかの発見を促し、自分の意見を簡潔にまとめる練習をします。
- ・ 「伝統」や「慣習」のことで片づけられていた現象を再検討し、西欧の文化、日本の文化について自分なりの考えを導き出すことが目標です。

授業計画

第1回 文化を比較するとはどういうことか	第9回 日本の娯楽（旅と温泉）
第2回 おとぎ話の比較（日本の昔話）	第10回 西欧の娯楽（旅行と教養）
第3回 おとぎ話の比較（西欧の昔話）	第11回 日本の娯楽（花鳥風月と演芸）
第4回 余暇と娯楽（「見る」と「する」）	第12回 西欧の娯楽（カフェ文化）
第5回 日本の娯楽（歌舞伎・舞踊）	第13回 近代の余暇と文化（百貨店）
第6回 西欧の娯楽（オペラ・バレエ）	第14回 現代の余暇と文化（遊園地）
第7回 日本の娯楽（カルタ・釣り）	第15回 娯楽を通じて文化を分析する
第8回 西欧の娯楽（競馬・スポーツ）	

教材・テキスト・参考文献等

- ・ テキストは使用しません。
- ・ 毎回資料を提示し、それに基づいて講義を進めます。
- ・ 参考文献については必要に応じて紹介します。

成績評価方法

- ・ 出席を重視します（毎回、小レポートによって出席の確認をします）。
- ・ 毎回実施する小レポート（講義を通じて発見したこと、それについての自分の意見、60%）と最終レポート（論述式、40%）を基準に評価します。
- ・ 5回を超えて欠席した場合、評価の対象外とします（無資格となり、最終レポートを提出しても評価しません）。